

# よむよむNEO No.22

R2.5.15(金)

## ミステリの最高峰をあなたに

＜ハヤカワ・ジュニアミステリ 刊行開始＞

書店でこの表紙を見つけたとき、思わず心の中で快哉を叫びました。  
「いぞ！ さすがは海外ミステリのハヤカワ!!」  
ミステリの女王 アガサ・クリスティの名作をジュニア版で読めるなんて！  
あなたたちは なんて幸せなんだ！  
羨望 --- いや嫉妬すら感じます。



「そして誰もいなくなった」  
アガサ・クリスティ・作  
(ハヤカワ) NDC・933

絶海の孤島に招待された10人の男女。  
招待主は U・N・オーエン。  
しかし誰も 彼のことを知らなかった。  
上陸した日の晩さん、かけられたレコードから  
10人が過去に犯した罪を告発する声。  
リゾート気分でこへ来た客たちが 一気に混乱し怯える中、  
最初の死人が。そして一人、また一人と断罪されていく。  
まるで、タペストリーに書かれた マザーグースの唄を  
なぞるようにして...

こわい！ そして先が知りたい！  
ページをめくる手が止まらなくなります。  
それにしても 妙なタイトルだとは思いませんか？  
島にいる10人の中の誰かが 客を装った犯人だとすれば  
殺人者は最後に生き残っているはず。それなのに---



ポアロが  
ダンテすぎる

名探偵ポアロ オリент急行の殺人  
アガサ・クリスティ・作  
(ハヤカワ) NDC・933

パリとイスタンブールを結ぶ長距離  
夜行列車の中で起きた殺人事件。  
真夜中のコンパートメントで、ラチェットという  
男が刃物でめった刺しにされて死んでいた。  
走行中の列車の中で起きたということは、  
犯人は必ず乗客の中にいる！  
たまたま乗り合わせた探偵ポアロは  
調査に乗り出した。

「真実はいつもひとつ！」というのが  
コナンくんの決めゼリフですが、  
今回、ポアロは2つの結論にたどり着きます。  
それはいたい ということなのでしょうか。

(ちなみに、ラチェットは殺される前の日、大金を積んで  
ポアロに自分の護衛をしてくれるよう依頼しますが  
あっさり断られているのです。  
「あなたの顔がきらいだから」という理由で!!)

ハヤカワ ジュニア ミステリーのラインナップは  
この後  
「メソポタミヤの殺人」  
「パティントン発 4時50分」  
「雲をつかむ死」...と  
クリスティものが10冊刊行された後  
第2期に移るようです。  
乞ご期待！

全部よんだら 海外ミステリーファン  
を名のれるぞ！